

## 第 8 回 共生社会被災者支援の会 議事録

日 時 2011 年 8 月 9 日（水） 午後 6 時 30 分から

場 所 梅田サテライト 108 号教室（北新地駅真上、大阪駅前第二ビル 6 階）

参加者 柏木宏、水野博達（教員）、阪野修、坂口一美、尾崎力、藤井伸二、佐野美保、後藤陽子

松野氏（つばさネットワーク）、松尾氏（大阪市社会福祉協議会）、広瀬氏（積水ハウス CSR 担当）、姫野氏（大阪市市民局）、澤田氏（弁護士）

### 【目的】

大阪府の新しい公共の補助金申請が受理されたことを受け、申請にあたってご協力いただいた方々を含め、これまでの活動経過について説明し、今後の協力をお願いする。

### 【議題】

1. これまでの活動の流れについて（柏木先生）
2. 8/2～8/5 気仙沼高校来阪報告（松野氏）
3. 事業概要と今後の展開について（柏木先生）
4. 質疑応答

### 【議事詳細】

#### 1. これまでの活動の流れについて

今回、初めて会合に参加される方々が半数ほどいたため、改めてこれまでの活動経過について説明を行った。

#### （概要）

この会は震災発生後 1 週間後くらいに 4 期生の坂口さんから分野の教員や在学学生、修了生とともに支援活動ができないかという話から設立された。坂口さんや阪野さんの現地調査を行っていたところ、藤井氏からつばさ高校の生徒を現地に連れていけないかということで調整を行い、がんばろう！つばさネットワークとの共催で高校生同士の交流事業も含めて 5 月に高校生が多く参加するボラバスを派遣した。

その後、被災された方々から話を聞くことで学ぶための事業などを展開するにあたり大阪府への補助金申請を行なった。7 月には障害者支援団体のネットワークオレンジや女性支援を行なっているイコールネット仙台の方を招致してのシンポジウム、8 月には気仙沼高校生を大阪に呼んで交流をはかるなどの活動を実施したところである。詳細については、「がんばっぺ気仙沼」というニュースレターをご覧いただきたい。

#### 2. 8/2～8/5 気仙沼高校来阪報告

気仙沼高校より高校生 11 名を含む 13 人が来阪。ホームステイや大阪・奈良観光を楽

しんだ。

気仙沼高校生を受け入れたあるホストファミリーでは、これまで話したことがなかった家族の被災について語られるなど特有の効果がみられたと思われる。その話を聞いて受け入れ先の家族とともに涙するなど気仙沼高校生に喜ばれたのはもちろん、つばさ高校の生徒にとっても思い出深い来阪になったと思う。気仙沼高校の一人は大阪に住みたいということもあった。

手間や費用の面でいろいろ制約があるかと思うが、こういう経験は学校では学べないことなので、これからもこのような活動の機会を設けて欲しいと思う。

### 3. 申請事業の概要説明と今後の課題について

#### (1) 青少年プロジェクト

がんばろう！つばさネットワークをきっかけとした大阪の高校生と気仙沼の高校生との交流を中心とした事業。

#### (2) SNG (スペシャルニーズグループ) プロジェクト

高齢者・障害者・女性・外国籍の人々をつなぎ、個別具体的な支援ができないものかと模索してゆく事業。これまで障害者や女性関係の NPO の方々などを招いてシンポジウムや勉強会を実施した。こちらから現地へ行って調査を行う活動と向こうからこちらに来ていただいて報告をしていただく活動とがある。

#### (3) 復興支援プロジェクト

復興に関して我々ができることは限られているが、現地への教育ツアー（気仙沼＋大島）のようなボランティアというより観光的色彩の強い活動によって、現地の経済的支援を行ってゆく活動を考えている。他にも屋台村構想が現地であるようなので、そこに関わってゆくことができないかと考えている。教育ツアーについては、将来的には旅行会社が商用ベースでこのような事業が実施可能となるようにすることを目標としている。

#### (4) その他

青少年・SNG・復興支援のそれぞれのプロジェクトをあわせた形で支援フォーラムを実施できればと思っている。他にも、気仙沼でリエゾンを採用し、現地のニーズを把握し、Wish List (Web にて公開) を作成する予定。リエゾンでは現地で法律などに関する個別具体的な問題への相談に大阪の専門家が応えるプログラムも考えている。また、ボラバス派遣も考えており、来週にボラバスを派遣する予定である。

今、さしあたり課題となっているのは復興プロジェクトの教育ツアーの実施と、支援フォーラムのあり方、リエゾンを通じたニーズ把握である。あとホームページの開設による情報の集約が課題となっている。現地での支援事業については、向こうは 12 月には非常に寒くなるので 11 月までが限度と考えている。

#### 4. 参加者からの意見

##### (1) 高齢者の支援について

高齢者の支援については寒くなる 11 月以降に一番ニーズが高まる時期と思うので、寒くなる時期に少し対応できるようにしたほうがいいのではないかと。それから介護というよりも看護ができる人が必要なのではと、思っている。そのような専門的グループをもつ支援団体との連携も必要なのでは。それと、尼崎市が気仙沼の支援を重視しているので、そこのボランティアとの連携も考えた方がいいのでは。

先日、尼崎市のフォーラムに坂口氏と岩山氏が参加し、キーパーソンと連絡が取れるようにはしている。

##### (2) 現地の NPO のネットワークについて

NPO 同士の話し合いの場が設けられているとは聞くが、NPO 同士の連携については全く見えてこない。

ホームページの開設による情報の集約が早急に求められるのではないかと。

こちらの事情がわかっている人を現地に派遣して、どのような部分で支援可能なかを把握する必要がある。

##### (3) 教育ツアーについて

観光だけでは 3 日間もたないので、他に特産品などがあるのかといったリサーチなどもパッケージにしようとしているが、行程表がまだできていない。

9 月には、仮設住宅でのソフトなボランティアと平泉観光を含めたものを考えている。現地の経済的効果を目的にした事業は既に旅行会社などが手がけているので、修学旅行のモデルプランを作るためのツアーのほうが地域活性化につながるのでは？（農協のグリーンツーリズムなどが行っているような事業）

教育ツアーの目的は現地の産業復興にどのような貢献ができるかを考えるとといった意味合いがあったのではないかと。

（教育ツアーに費用はとっているのかという質問に対し）現地の宿泊代や食事代はいただく予定。

費用面（補助金への対応）や大阪でのニーズとのマッチングのことも考慮し、来年度の事業展開を考えながら実施する必要がある。

##### (4) それぞれのプロジェクトの相関関係やシナジー効果について

現実問題、当会は専任スタッフがいるわけではなく、各スタッフがほぼボランティアで動いているので、それぞれが独立させながら運営するといった形態をとっている。そのため、意図的にそれぞれの事業を関連づけてコーディネートするというのはなかなか難しい。

#### 5. その他

・ SNG 関連でパラリンピックキャラバンのほうで、先日の分野主催のシンポジウムに参加

いただいた方からの情報提供で、東京の NPO と気仙沼で何かしたいという依頼があった。脳性機能マヒの方で天才的な画家が気仙沼で計画されている復興屋台村にオブジェを提供して下さるとのこと、今後連携して関わってゆくことが予定される。

- ・東京の CGP という国際交流基金の一つで日本とアメリカの交流事業の助成をする団体があるが、そこで日米での震災関係の連携ということで、特に当会の SNG 事業と結びつけた活動ができないかということで、アメリカの高齢者・障害者・女性などの支援団体とつながってゆく活動に助成申請を行うことになる。助成が受けられれば、現地と大阪とアメリカとつながりながら活動を展開できればと考えている。

以上、文責 後藤